今月の話題　　NO. 50

フキノトウ

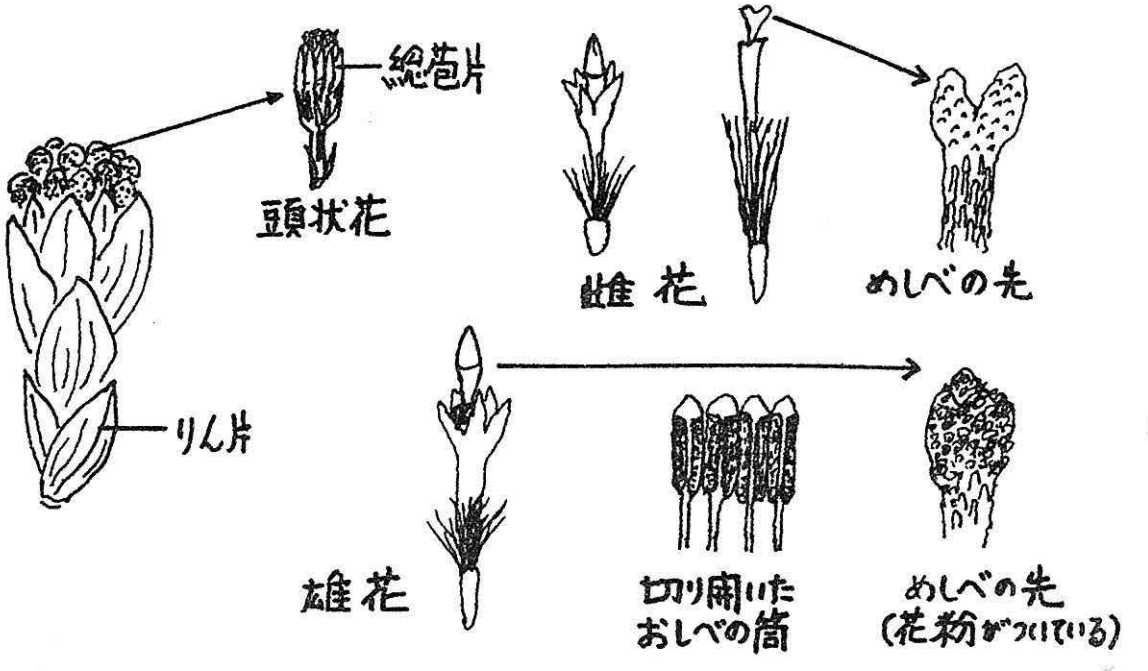
フキの花茎をフキノトウと呼んでいます。淡い黄緑色のりん片に包まれています。のどかな春になると、かたく包んでいたりん片がほころんで、花茎が長く伸びて花が咲きます。キク科の特徴である小さな花が集まった頭状花、つまりタンポポを小さくしたような花がいくつも開きます。

花は全般にうすい黄白色ですが、ちょっと注意して見ると、白っぽいものと、黄色っぽいものとがあります。白っぽいものは、花茎が長く、これが雌花です。また、少々紫色を帯びることもあります。黄色っぽいものは、雄花で花茎が短いのが普通です。フキノトウは地下茎からいくつも出ますが、雌花のフキノトウと雄花のフキノトウは株が別です。いわゆる雌雄異株で、キク科植物としては珍しい存在です。

普通、キク科植物は、雌雄同株で、しかも1つの花にめしべとおしべがある、いわゆる両性花です。フキノトウも、一見めしべとおしべのある両性花のように見えますが、はたらきの面で雌花と雄花の区別がはっきりしています。

雌株の頭状花には、2種類の小さな花がいくつもあります。1つはめしべの先が2つにまたをなしています。これが雌花です。もう1つは、あとで述べる雄花と同じ形をしていますが、花粉を出しま

せん。はたらきを失った化てす。1株の頭状花には1種類の小さな花がいくつもあります。よく見ると、筒状にくっつき合ったおしべと、先がとがっためしべがあります。しかし、このめしべは実を結びません。おしべの筒の中を伸びながら、おしべがはき出した花粉を集めて、外へ押し出す働きをしているのです。筒から外へ押し出された花粉は、虫によって雌花のめしべに運ばれて受粉します。また、同じキク科の花も変わったつくりとはたらきをしています。たとえば、同じ花でもおすの時期とめすの時期があります。自然界は不思議です。これもあわせて観察してみましょう。　（S・N）



富山市科学文化センター
富山市西中野町3丁目1番19号（〒930-11）
電話 富山（0764）91－2123（代表）

昭和57年5月1日発行